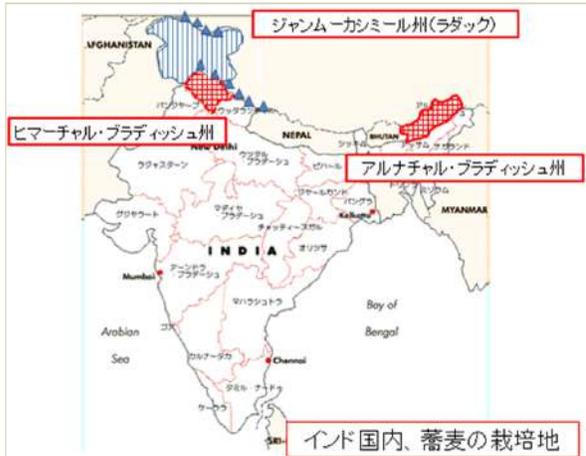


ラダックの蕎麦

ラダックは古くからダツタン蕎麦を食べていましたが、現在は普通蕎麦を食べています。但し、一部の地域(3,500m以上の高地)ではダツタン蕎麦を栽培して大麦と混ぜて食べています。

ラダックには7世紀頃に西側(パキスタン側)からチベット仏教徒が入り、ラダック各地に僧院が作られた歴史があり、普通蕎麦はその時に持込まれたものと推測しています。→ その事はシャヨク川沿いの村々での栽培地からも推測できます(一般的な蕎麦の分布ルート側の村では栽培していません)。

1、インドの主な蕎麦栽培地域



蕎麦栽培の3州の内でもラダックは主要な栽培地と言われていますが耕作面積・収穫量のデータはありません。但しインダス川沿いの村での収量は65~100Kg/1000㎡とのことでした。

*ラダックの蕎麦栽培は減少気味で、一部の地方では殆ど栽培なくなり、「ハレ」の時に食べる蕎麦は他の村から買っている状況です。

2、栽培時期

ラダックの内でも地域によって気候の違いが大きく、栽培時期が違ってきます。

栽培地域	播種	収穫	備考
インダス川沿い(スキュルプチャン村など)	7月中	9月末	大麦の後(2毛作)
シャヨク川沿い(トルウトツク村など)	7月初	9月中	
スル川沿い(カルギール周辺)	7月初	9月中	
ザンスカール川沿い(パドウム村)	6月初	8月中	降雪量が多いため

「収穫時」

チベット仏教徒の村では、蕎麦や大麦などの作物を収穫する際に刈り取らず、根から抜いていますが宗教上の理由もあり、根は家畜の飼料や燃料にもなっています。

トルウトツク村の蕎麦畑



蕎麦の収穫(根付き)



大麦の収穫(根付き)

ラダック蕎麦の実
 K・・・キタワセ
 T・・・トウルトウク
 S・・・スクルプチャン



蕎麦の「実」対比

ラダックの蕎麦は、キタワセ(日本)より色が薄く、縞模様がハッキリしていて、小粒でやや細長い。

日本で栽培したら季節的に「春蕎麦」？
 気候的に「秋蕎麦」？になるのでしょうか。

ラダックの蕎麦は、甘みがあって美味しい蕎麦蕎麦でした。

3、ダッタン蕎麦

ラダック地方の畑は高地(2.700m~3.700m)なので古くからダッタン蕎麦を栽培していて、現在は極く一部の村で僅かに栽培している状況で、ザンスカール地方ではアティン村で栽培していました。

ダッタン蕎麦の親(近種)はシャクチリ蕎麦で、シャクチリ蕎麦は野生種なので「家畜の餌にしている」と聞いていましたがラダックでの生育は確認できませんでした。

ダッタン蕎麦の「根」が普通蕎麦と違っているのに気付き、対比してみました。

* 普通蕎麦の「根」

多くの細い根が地中に横に広がっています。



* ダッタン蕎麦の「根」

太い根で地中に深く入っています。



* シャクチリ蕎麦の「根」

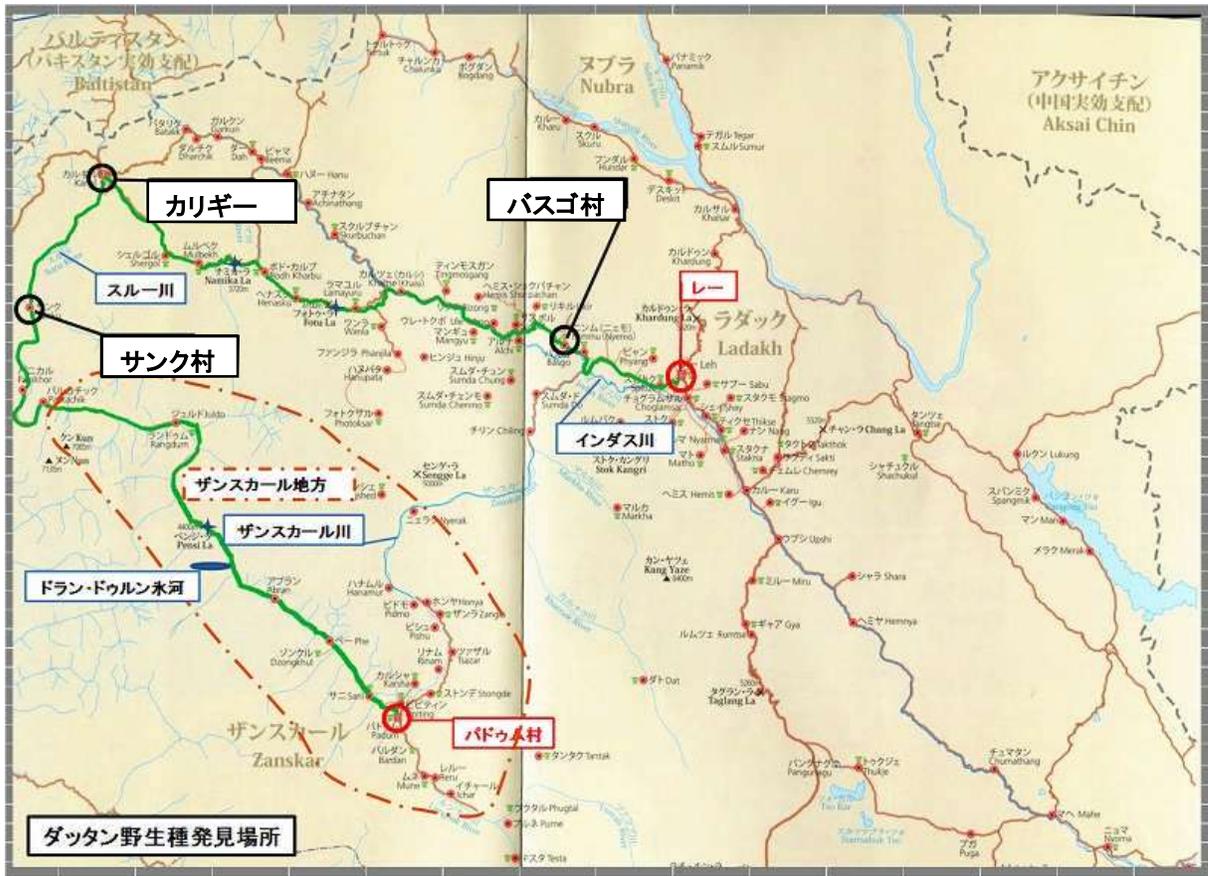
自殖性なので「根」は大きくなり漢方薬になります。



シャクチリ蕎麦の全体

「ダットン蕎麦の野生種」

蕎麦の野生祖先種の発生地を発見した京都大学: 大西近江名誉教授から「インダス川沿いにはダットン蕎麦の野生祖先種が生育しているはず」との話をお聞きしたので、探索したところ、下図の3か所で見付けることができました。



ダットン蕎麦の(栽培種・雑種・野生種)判別方法

1. 栽培ダットン蕎麦の花は薄緑色、野生種は白に近い黄緑色、雑種はその中間色。
2. 脱粒性が非脱粒性かが未だ判らない段階では、植物がほふく性(地面に這う)があれば野生種。通常の蕎麦のように直立していれば栽培種、雑種、野生種のすべての可能性がある。
3. 脱粒性は遺伝的に劣勢の性質ですから、野生種と雑種は脱粒性で、非脱粒性は栽培種。
4. 野外では種子が未だ青い内から脱粒するか否かで確認、この性質が決め手。
5. 種子の形も栽培種と野生種の区別に役立ちます⇒丸い形で表面がスムーズなのは栽培種で、表面がデコボコであったり種子の翼がギザギザがあるのは野生種だけ(写真参照)



バスゴ村の大麦畑で見つけたダツタン野生種



赤い茎と葉が目立ちました。
種子の形(ギザギザ)が良く判ります。

カルギール市内の牧草畑で見つけたダツタン野生種



結実には早く、花の色で判断できました。

サンク村の大麦畑で見つけたダツタン野生種



「歩ふく性」のものも見付けました。

「野生祖先種」と「栽培種」について

「ダツタン蕎麦の野生(祖先)種」は、19世紀末にロシア人(Potanin)が、中国甘肅省で発見したのですが、実際の起源地は中国三江地域と言われています。

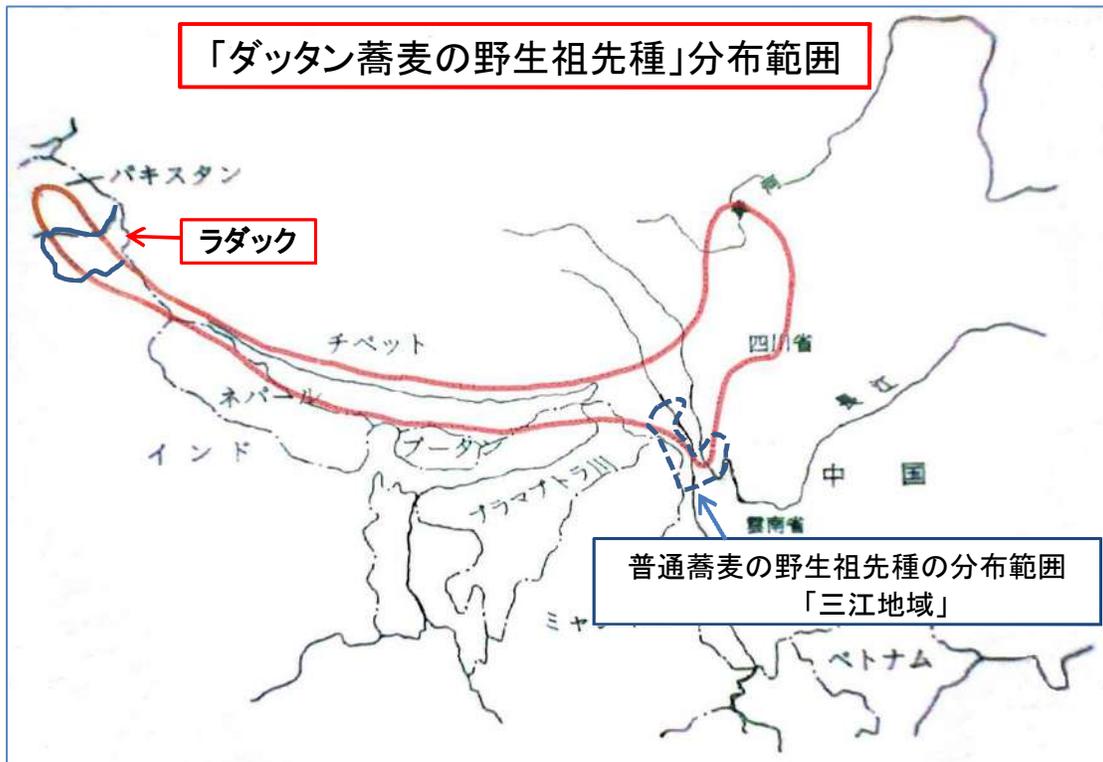
中国三江地域は「普通蕎麦の野生(祖先)種」の起源地(大西近江先生が発見)でもあります。

ダツタン蕎麦の親(近種)は、シャクチリ蕎麦と言われていますが、70万年～150万年前に分化したものと調べられています(京都大学、山根京子博士)。

また、ダツタン蕎麦に限らず、普通蕎麦の野生祖先種が栽培種になったのは何らかの突然変異(脱粒性→非脱粒性)によるものと考えられています

尚、ラダックのダツタンは、ラダックで「野生種から栽培種」になったものではなく、各々が起源地から分布して来たものです。

* 普通蕎麦は約5千年前には、中国にあった事が埋蔵種子から確認されています。



ダットン野生祖先種は、起源地(中国、三江地域)から赤線の範囲に広く分布しています。
但し、普通蕎麦の野生祖先種は起源地(中国、三江地域)からの分布は狭い範囲に留まっています。